

た。男女別では、毎号目を通す女性が54.2%、男性が48.5%と女性のほうが高い結果となった(表48)。女性は「毎号目を通す」と答えた人が前回は37.1%だったにもかかわらず、今回は17.1ポイントも増えている。

しかし「労協新聞の活用」に関する設問については、「無回答」が全体で65.2%にのぼった。毎号読んでいる人の割合が高い福祉・介護でも活用していない割合が68.8%であった。活用別(複数回答)では、「団会議で読み合わせ」が9.6%(前回比3.8ポイント↓)、「毎号オーナーに届ける」が2.4%(同0.1ポイント↓)、「不定期にオーナーに届ける」が3.7%(同0.8ポイント↓)、「読者拡大の行動」が1.5%(同0.5ポイント↓)と前回より下回った項目が多かったが、「仕事拡大に活用」では7.0%と前回より3.5ポイント上回った。前回活用度が高かった清掃・ビルメンでは、今回は「団会議で読み合わせ」が14.7%(前回比5.3ポイント↓)、「毎号オーナーに届ける」が5.5%(同0.3ポイント↓)、「不定期にオーナーに届ける」が3.7%(同2.7ポイント↓)、「読者拡大の行動」が0.9%(同2.1ポイント↓)、「仕事拡大に活動」が6.0%(同3.0ポイント↑)となった(表49)

5. ホームヘルパーの資格、通信教育受講意欲

ホームヘルパーの資格は39.8%が持っていると答え前回より18.7ポイント増加、福祉・介護の領域で組合員が増えたことを表している。職種別では福祉・介護は86.7%(前回比4.2ポイント↑)の取得率で、次いで清掃・ビルメンの20.0%(同6.2ポイント↓)、給食の17.5%(前回比較なし)、物流の16.0%(同5.8ポイント↑)となっている。

そのうち、資格未保有者に更に質問し、ホームヘルパー2級の「通信講座」の受講意思について聞いたところ、「はい」の回答者が全体の8.7%(前回比5.7ポイント↓、未保有者の15.5%)、「いいえ」が全体の30.1%(同19.1ポイント↑、未保有者の53.9%)であった(表50)。

IX. 協同組合諸制度の認知度と協同労働について

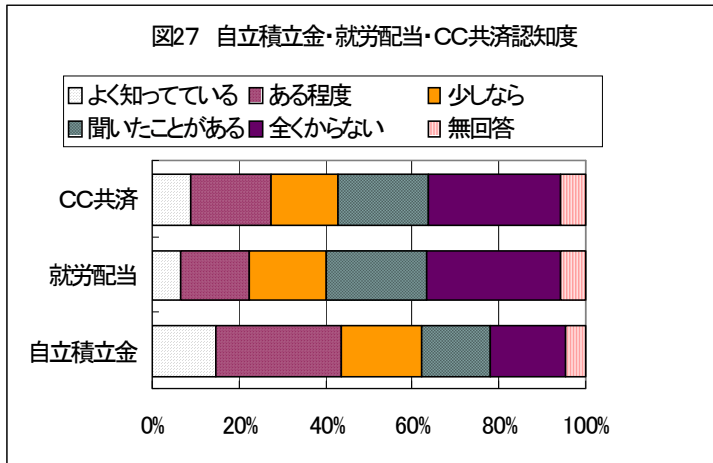
1. 事業団の様々な制度の認識・認知度

【増資計画と出資】

約2ヶ月分の増資計画を立て増資しているかの質問には、「はい」が42.5%(前回比11.0ポイント↓)、「いいえ」が25.5%(同10.6ポイント↓)、「すでに達成」が14.6%であった。「すでに達成」という回答は前回には設けていなかったもので、ここ2~3年で出資者が増えたといえる(表51)。

【自立積立金、労働配当、CC共済の認知度】

これら3つの認知度は、「よく知っている」「ある程度」を足すと、自立積立金43.6%(前回比2.5ポイント↑) > CC共済27.3%(同7.8ポイント↑) > 就労配当22.5%(同1.3ポイント↓)で、CC共済の認知度が大幅にあがった。自立積立金の認知度に絞って職種別に比較すると、廃棄物関連の62.5%(前回比なし)、物流の54.3%(前回比9.9ポイント↑)、公園・緑化の45.0%(同3.0ポイント↓)、給食の41.2%(前回比なし)が高かった。認知度



は、年代別よりも職種別の差のほうが目立つ（表 52、53）。

2. 「ICA：協同組合の定義、価値、原則」と「労働者協同組合の新原則」

1995年ICAマンチェスター大会で採択された「協同組合のアイデンティティに関する声明：協同組合の定義、価値、原則」の内容についての認知度は、「良く知っている」1.3%（前回比1.0ポ

イント↑）、「ある程度」10.8%（同6.5ポイント↑）、「ほとんど知らない」28.5%（同6.6ポイント↑）、「知らない」53.9%（同11.1ポイント↓）であった。前回より認知度があがっていることがわかる。「よく知っている」と「ある程度」を合計した数値で見ると、清掃・ビルメンの18.8%（前回比13.7ポイント↑）、公園・緑化の11.7%（同2.4ポイント↑）、福祉・介護の9.7%（同1.7ポイント↑）、給食の9.7%（前回比なし）が高かった。男女別では、男性が17.1%（前回比8.0ポイント↑）、女性が9.5%（前回比7.0ポイント↑）と差が見られた（表 54-1）。

労働者協同組合の新原則の内容については、「よく知っている」「ある程度」を合計すると、21.8%と前回より6.8ポイント増えた。職種別で高い順から並べると、清掃・ビルメン27.7%（前回比8.0ポイント↑）、物流25.3%（同11.9ポイント↑）、公園・緑化21.7%（同4.4ポイント↑）、福祉・介護19.0%（同1.1ポイント↑）、給食16.5%（前回比なし）、食品加工4.0%（前回比なし）、販売・売店3.8%（前回比なし）と差が目立った。またICAの原則同様、男性27.6%（同3.3ポイント↑）、女性18.3%（同9.1ポイント↑）と男女差が目立ったが、女性は前回より大幅に伸びていることがわかる（表 54-2）。

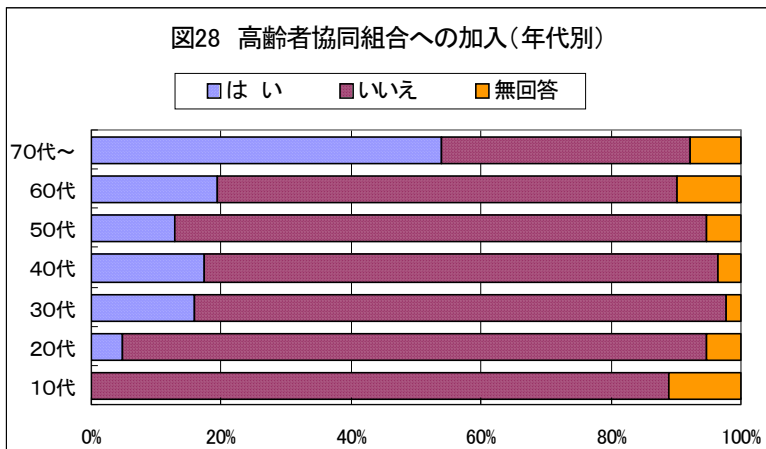
所長会議では毎回読み合わせをしているのに認知度が約2割にとどまっているところを見ると、職場での運営が求められていると言えるだろう。

3. 高齢者協同組合（高齢協）の加入率、参加度

【加入率】

高齢協の加入率は前回の22.8%より5.6ポイント減り、全体で17.2%となっている。年代別では、70代以上が53.9%、60代が19.5%、50代が12.9%、40代が17.4%、30代が15.8%、20代が4.7%となっている。職種別では公園・緑化の45.0%（前回比16.3ポイント↓）が高く、次いで清掃・ビルメン17.7%（同8.6ポイント↓）、物流17.3%（同3.6ポイント↓）、給食15.5%（前回比なし）、福祉・介護14.7%（同22.1ポイント↓）となっている。前回に比べ公園・緑化と福祉・介護の減少率が目立つ（表 55-1）。

図28 高齢者協同組合への加入(年代別)



高齢協に参加している人の高齢協地域活動への参加度は、「積極的に参加」が8.3%、「少し参加」が22.5%となっていて、前回の傾向と変わらない(表55-2)。

4. 購買生協や医療生協、他の協同組合との関わり【加入率】

高齢協を除く購買生協や医療生協など、他の協同組

合には35.9%が参加している(前回比2.1ポイント↑)。男性は10代を除いて約2~3割の参加率(ただし70代以上は45.7%の参加)、女性は10・20代を除いて3~5割の参加率である。職種別では販売・売店が73.1%(前回比なし)と高く、次いで福祉・介護43.6%(前回比6.9ポイント↓)、公園・緑化41.7%(同4.4ポイント↑)、物流37.7%(同1.3ポイント↓)となっている(表56-1)。

5. 知人・友人に「労働者協同組合」の話をしているか

「積極的に」「少しは」を合わせると、全体で19.6%の人が労働者協同組合の話をしている(前回比0.8ポイント↓)。前回とほぼ同じ割合であるが、「全くしていない」人は前回より3.4%増え46.4%となっている(表57)。職種別では、話をしている人の割合は清掃・ビルメンが22.1%(前回比4.3ポイント↓)と一番高く、次いで公園・緑化21.6%(同14.4ポイント↓)、福祉・介護21.2%(同4.3ポイント↓)となっている。他の職種よりは高いとはいえ、公園・緑化の前回との差が目立つ。年代別では、70代以降が高く、男性32.6%(同1.4ポイント↓)、女性45.9%(同5.9ポイント↑)であった。男女別に話している割合を見ると、男性21.1%、女性20.2%と差はなかった(表57)。

6. ICAやJJC加入認知度

ICA(国際協同組合同盟)とJJC(日本協同組合連絡協議会)の加入認知度は、ICAが24.9%(前回比1.2ポイント↑)、JJCが20.7%(同2.3ポイント↑)で、前回よりも割合が微増している。また男女別で認知度に差があり、どちらか一つでも認知している割合は男性が38.1%(同2.1ポイント↑)、女性が23.1%(同1.9ポイント↑)となっている(表58)

7. 「職場と私」

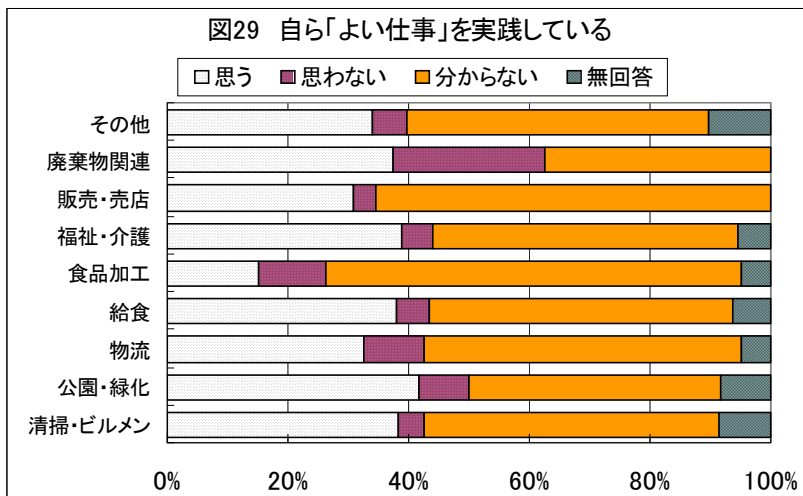
【「良い仕事」の実践~自己評価】

自分は良い仕事をしていると「思う」と答えた人は35.6%(前回比1.4ポイント↑)、「思

わかない」が6.1%（同1.1ポイント↓）、「わからない」が51.4%（同1.2ポイント↓）となり、前回と似たような結果になった。年代別では、「思う」と答えた人は10代11.1%、20代17.8%、30代30.1%、40代32.4%、50代36.8%、60代40.9%、70代49.4%と、年齢があがるにつれ自己評価が高くなった。

職種別では公園・緑化が41.7%（前回比11.0ポイント↓）と最も高く、次いで福祉・介護38.8%（同6.0ポイント↓）、清掃・ビルメン38.3%（同2.7ポイント↓）、給食38.1%（前回比なし）、廃棄物関連37.5%（前回比なし）、物流32.7%（同9.7ポイント↑）、販売・売店30.8%（前回比なし）、食品加工15.2%（前回比なし）となった。全体的に前回より微減した印象であるが、物流だけがアップしている（表59-1）。男女別ではほとんど差はなかった。

前回同様、「わからない」と答えた人が多かったので、「よい仕事」とは何か、自信を持って仕事ができる環境について引き続き議論が必要であろう。「よい仕事」の具体的内容については別記3に載せた。



【「良い仕事」の実践～事業所としては】

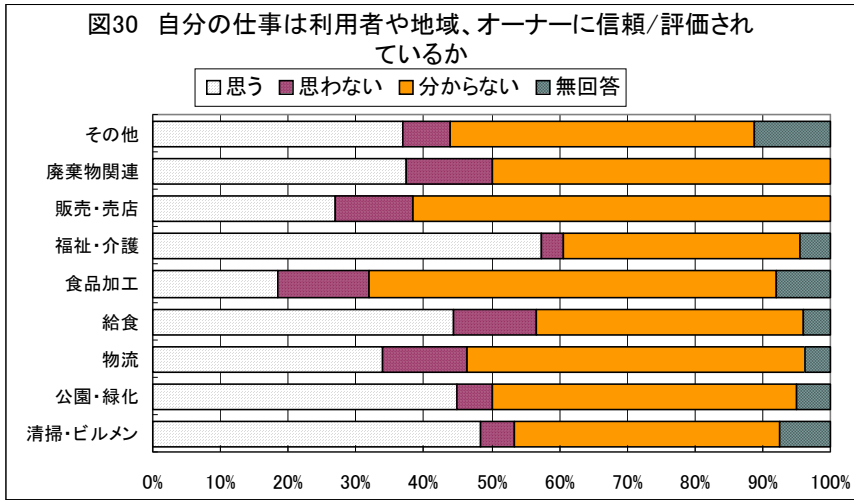
客観的に判断して、事業所では「よい仕事」が実践されているか、という質問に対し、「思う」44.6%（前回比3.4ポイント↑）、「思わない」10.8%（同1.1ポイント↑）、「分からない」37.8%（同3.9ポイント↓）と前回より「思う」と答えた割合が増えた。表59-1で問うた自己評価に

比べて組織全体のほうを高く評価しており、日本人的な結果となっている。また事業所に関しては、良い仕事をしていると「思う」が「わからない」を上回った。

職種別では、福祉・介護が個人評価38.8%に比べて事業所評価が57.8%と大幅に差が開いたのが目立った。またほとんどの事業所では事業所評価のほうが個人評価より高かったが、公園・緑化と販売・売店は事業所評価が個人評価より5.0ポイント下がっている（表59-2）。

【事業所・現場の信頼】

「自分の事業所・現場の仕事は、利用者や地域、オーナー等に信頼・評価されているか」という質問に対し、「思う」が45.2%（前回比3.8ポイント↑）、「思わない」が6.6%（同1.3ポイント↓）、「分からない」が41.8%（同3.7ポイント↓）と、表59-2と似たような結果



となった。「よい仕事の実践」の個人評価よりも、事業所における「よい仕事」の評価のほうが高く、それよりもオーナーの評価のほうが高いと思うという傾向は、前回と比べ組合員が半数近く入れ替わっているにもかかわらず、前回と同様の結果となった(表 60)。

【「協同労働」という言葉の認知度】

この言葉を「知っている」と答えたのは全体で 65.5%、前回より 9.2 ポイントも増えた。どの職種でも過半数を超えたが、食品加工だけは 41.6% と半数以下にとどまった。

年代別では、「知っている」と答えた人が 7 割を超えたのが男性では 30 代、40 代、70 代、女性では 20 代、70 代女性で、数値が低かったのは 10 代の約 3 割、30 代女性の 58.8% であった(表 61)。

X. 満足度について

1. 総合集計

収入、資産、ゆとり、仕事、心の豊かさ、住環境、生活全般の 7 項目について、「かなり満足している」「やや満足している」「どちらともいえない」「あまり満足していない」「ほとんど満足していない」の回答を求めた。前回同様、「資産」「収入」「余暇・ゆとり」で満足度が低く、「あまり満足せず」「不満」を合わせた数値が「かなり満足」「やや満足」を合わせた数値を上回った(表 62-1)。

また満足度指標として「かなり満足」を 2 とし、「ほとんど満足していない」を ▲2 とした 5 段階評価をとった。以下は、生活全般を除いて各項目別の有回答者の平均を満足度の低い順から高い順に並べたものである。全体的に満足度は前回よりあがっている。しかし「余暇・ゆとり」だけは若干下がった。

なお、参考資料として平成 16 年「国民生活に関する世論調査」を載せた。同じ 5 段階の調査であるが、満足度の表現の仕方が少し異なるため一概には比較できないが、参考にさせていただきたい(表 62-2)。

以下には「生活全般以外」は満足度の低い順から職種別年齢別中心に分析する。

2. 生活全般